

# 外科と精神科の関わり

京大病院精神科神経科

野間 俊一

- ▶ 外科患者の心理状態のみかた

術前術後によくみられる精神症状  
対応の基本

- ▶ 外科医のメンタルヘルスについて

日常業務のなかの落とし穴

# 外科患者の心理

## ●術前の心理

- ▶ 疾患そのものに対する不安 ※告知の問題
- ▶ 手術に対する不安(麻酔・術後の疼痛など)

## ●術後の心理

- ▶ 疼痛・安静・絶食などのストレス
- ▶ 予後への不安
- ▶ 社会復帰に対する不安



# 術後によくみられる精神障害

## 1. せん妄

- ▶ 意識障害を基礎とした不安、興奮、幻覚妄想状態
  - ▶ 直接原因：代謝性脳症、薬物中毒、脳血管障害・頭部外傷急性期など
  - ▶ 誘発因子：身体的ストレス（侵襲的治療、感覚遮断、身体拘束など）、心理的不安
  - ▶ 準備因子：脳血管障害慢性期、痴呆、加齢
- ☆術後せん妄、ICU症候群

## ●せん妄の治療

- ▶ 直接原因の除去  
代謝性脳症、薬物中毒の治療など
- ▶ 対症的薬物療法  
短時間の鎮静：ジアゼパム静注  
※呼吸抑制に注意  
日単位の鎮静、予防：ハロペリドール静注、内服
- ▶ 誘発因子の除去  
身体的負荷の軽減、安心できる環境の確保



## 2. うつ状態

- ▶ 心身のオーバーヒート
- ▶ 生理的变化：食欲不振、睡眠障害
- ▶ 心理的变化：抑うつ気分、意欲低下

### ●うつ病の治療

- ▶ ストレス要因の軽減
- ▶ 安静保持
- ▶ 抗うつ剤、睡眠導入剤の投与

# せん妄・うつ状態・痴呆の鑑別

	せん妄	うつ状態	痴呆
発症と経過	急性、変動	徐々に発展	潜在性
意識	混濁	清明	清明
思考	混乱	制止	不毛、解体
睡眠・覚醒 リズム	崩壊	不眠	昼夜逆転

### 3. 退行(子供返り)・不機嫌・ひねくれ 解離症状(健忘、緘黙、人格変化)

- ▶ 経過が思わしくない場合に多い
- ▶ 現在の心身のストレス＋将来への不安
- ▶ 医師・看護の統一された安定した対応が必要
- ▶ 甘やかさず、突き放さず



# 外科患者に対する理解

## ●医療者が把握しておくべきこと

- ▶ 病気や治療についての理解や受容の仕方
- ▶ 生活背景：家庭や職場の状況、生活史
- ▶ 元来の性格
- ▶ 現時点でのストレス要因

⇒そのつどの患者の訴えを多角的にとらえ  
柔軟に対応していく

# 外科研修医の心理的ストレス

- ▶ 肉体的負担：手術、病棟業務、勉強  
⇒ 食事・睡眠が不規則に、疲労の蓄積
- ▶ 医者としての重圧  
人の生死に携わる・患者への過度の共感  
ミス・訴訟の恐怖
- ▶ 社会人としての責任  
医局内の人間関係  
※知人のいない医局へ入局した場合  
看護や医療スタッフとの関係  
患者およびその家族への対応



# ストレス状況下にある研修医の コーピング・パターン(1)

## ▶ 問題解決型

自分にとっての問題点を整理し、ひとつずつ解決していく。

先輩や同僚に積極的にアドバイスを求める。

## ▶ 発散型

仕事は効率よく切り上げ、プライベートタイムを充実させる。



# ストレス状況下にある研修医の コーピング・パターン(2)

- ▶ 自信喪失型

失敗したとき、自分の医者としての不適合さのせいにする。自分の欠点ばかりが目につく。

⇒うつ病の予備軍

- ▶ 不適応型

この医局、この職場は自分にはふさわしくないと考え、研修意欲を喪失する。プライドの高い自己愛性格に多い。

⇒アルコール癖の危険

# 過労自殺について

- ▶ 過酷な就労条件下での自殺を、一種の過労死と捉える。
- ▶ 過労→慢性疲労→うつ状態→自殺
- ▶ 過労→慢性疲労→急性一過性精神病→自殺
- 大学病院での研修条件は必ずしも「過労」に結びつかないが、研修医のキャパシティによっては結果的に「過労」となってしまうこともある。



# 心理的ストレスの危険サイン

- ▶ 睡眠障害：早朝覚醒、入眠困難  
(寝る気にならなくてダラダラ過ごしてしまう)
- ▶ 食欲不振、暴飲暴食
- ▶ 注意力、集中力の低下
- ▶ 首から上の緊張感  
(頭に輪をかぶった感じ、顔が引きつる感じ)
- ▶ リラックスできない、物事を楽しめない
- ▶ 孤立する、人と話す気にならない
- ▶ 知覚過敏(とくに聴覚過敏)



## 研修医が精神的健康を 維持するために

- ▶ 患者の苦痛を共感できる感性と、患者の状態を客観的に把握して冷静に対処できる態度とのバランスを身につける。
- ▶ 自分の体のサインに気を配り、疲労がたまった場合にはとにかく十分に睡眠をとる。
- ▶ どんな些細なことでも同僚研修医、看護師、先輩や上司に質問、相談することを習慣にする。医局、病棟はそうのようにできる雰囲気作りを心がける。